日立市立山部小学校

Ⅰ　実践

1　研究主題

「互いに認め合い，励まし合い，助け合う心を育てる人権教育の在り方」

（1）　主題設定の理由

情報化，少子化，高齢化などの社会の変化に伴って，子どもたちを取り巻く環境は大きく変わってきた。核家族化が進むにつれ，人との関わりが希薄化し，様々な問題も発生している。このような社会の中，子どもの感性を豊かにし，自分も他の人も大切にできる人を育てるための人権教育が大変重要になっている。

本校は，日立の北に位置した丘陵地にあり，児童の約半数は，祖父母と同じ敷地に居を構え，祖父母と関わりをもつ機会が多い。祖父母との関係などから，地域の人へ進んであいさつをするなど，地域の人との交流をもつことができ，明るく素直な児童が多い。しかし，集団生活の中では，自己中心的な言葉や行動をとってしまいがちな児童もいて，児童間のトラブルもおきている。また，本校は，複式学級２クラスを含めた単学級４クラス編成でクラス替えもないため，友人関係が崩れてしまうとなかなか修復が難しい。

そこで，学校の教育活動全般の体験や交流を通して，本校のめざす児童像である「明るく，思いやりのある子」－互いに認め合い，励まし合い，助け合う子－の育成を目指して本主題を設定した。

（2）　研究の内容

ア　道徳教育の充実

イ　異学年との交流活動（たてわり班活動・ドッジボール大会・山部ふれあい運動会・なかよし給食）

ウ　地域・三世代交流活動（やまびこフェスティバル）

エ　人権教育を意識した学級経営

2　実践内容

（1）　道徳の時間における「友情，親切」に関する授業（第２・３学年）

ア　困っている人を見て，その人のために何かしてあげた経験があるか発表し合う。

イ　資料「不思議なぼくの気持ち」を読んで，ぼくの気持ちについて考える。

（ア）運転手さんは，意地悪だ。もっとゆっくり走ればいいのに。

（イ）みんながやっていないのに，自分が助けてあげるのは，なんだかかっこ悪いな。

（ウ）勇気を出して手を引いてあげればよかった。自分のおばあちゃんならできるのに，なんで助けてあげられなかったのかな。

（エ）自分のおばあちゃんでなくとも，今度は，誰でも助けてあげたいな。

ウ　今までの自分を振り返って，親切にしてあげようと思ったけれどできなかった経験について発表し合う。

（ア）友だちが困っていたのが分かっていたけれど，知らないふりをしてしまった。

（イ）バスの中で，お年寄りの人が立っていたのに，席を譲れなかった。勇気がなかった。今度は，勇気をだしてみたい。

（2）　異学年との交流活動

児童を４つのたてわり班に分け，年間を通して様々な集団活動に取り組むことによって，異学年児童相互の親睦を深め，他者への思いやりや助け合う心を養うことを目指した。

ア　ドッジボール大会

異学年集団で活動することにより，互いに協力し合い，仲よくしようとする気持ちを育成する。上級生は，下級生もゲームが楽しめるようにボールを回したり優しく投げたりと，相手を思いやる優しい行動がられた。下級生は，十分楽しむことができた。

イ　ボランティア活動

ボランティア活動を通して，自分たちで育てた草花を地域のお年寄りにプレゼントし，高齢者を敬う心を育てる。「山部ふれあい運動会」で地域のお年寄りに児童が書いた手紙を添えて花をプレゼントし，地域のお年寄りと交流を図ることができた。

ウ　なかよし給食

なかよし給食の実施を通して，たてわり班のメンバーとの親睦を図り，食事のマナーも教え合うことができる。１学期は校庭で，２学期にはたてわり班ごとに各教室に分かれて会食をした。一緒に食べるメンバーや場所がいつもとちがうので，会話が弾み，楽しく会食することができた。

（３）　地域・三世代交流活動（やまびこフェスティバル）

本年度は創立１４０周年ということで，創立１４０周年記念やまびフェスティバルを実施した。本校を卒業したＯＢの方々に昔の山部小の様子をうかがったり，保護者・地域のお年寄りと共に活動する場を設けたゴムとび，お手玉，けん玉，輪投げ，折り紙，かるたのコーナーを異学年集団のたてわり班になってまわりながら，保護者・地域のお年寄りとの交流を深め，人と触れ合う楽しさや素晴らしさを感じることができた。ふれあいタイムで用意されたコーナーは昔あそびだったので，お年寄りの方々も，昔を懐かしみながら，とても楽しそうに子どもたちと一緒に遊ぶ姿がみられた。これらの活動を通して，保護者や地域の方々の協力で楽しい会がもてたことに感謝した。

OBの方の話

ふれあいタイム（輪投げ）

ふれあいタイム（折り紙）

（４）人権意識を育てる学級経営　～２・３年生の実践から～

「互いに認め合い，励まし合い，助け合う心を育てる」ためには，学級のすべての子どもが安心して生活できる場にすることが大切になってくる。そこで，学級においては，「互いに認め合える場づくり」と「コミュニケーションの力」を育てていくきっかけとなる「あいさつの習慣」の２つから，人と人とのつながりを大切にできるような力を育てている。

ア　互いに認め合える場づくり

「今日のハッピーニュース」を帰りの会で発表し合った。「〇〇さんが，～をしてくれたのがうれしかったです。」「〇〇さんに，～をしてあげていたのでやさしいなと思いました。」など，友だちのよさを発表し合って，互いに認め合える場ができた。

イ　家の人・友だち・地域の人にあいさつをしよう。　［１０人あいさつ］

本学級は男子６人，女子３人の複式学級である。児童は，学年はちがっても，幼稚園や保育園の頃から一緒に生活している子が多いせいか，多くを話さずとも分かることが多い。しかし，お互いをよく理解するためには，コミュニケーションの力を育てていかなければならない。まずは，家の人・友だち・地域の人へあいさつをすることからはじめた。数も１０人と限定することで，継続して続けられるようになった。

３　成果

（１）道徳の授業を通して，自分の生活を振り返り，自分自身や友だちについて考える児童が増えている。

（２）異学年集団の活動を通して，助け合い，励まし合う心や態度が見られ，高学年の児童が低学年の児童を思いやる心が育ってきている。

（３）「今日のハッピーニュース」を通して，友だちのよさを見つけようとしたり，友だちのまねをしてよい行いをしようとしたりして，道徳心が養われている。

Ⅱ　今後の課題

教師の人権教育に関する理解と認識を高めるための研修を充実させ，家庭や地域の方々との連携の仕方を工夫して，より人権教育に取り組んでいけるようにしていきたい。